

その4 侵入防止柵の点検・補修をしましょう

侵入防止柵を設置しているのに、被害が止まらないという集落はありませんか。侵入防止柵は設置して終わりではなく、その後の管理が被害の軽減に大きく関わってきます。以下の項目に注意しながら、定期的な点検・補修を行きましょう。

【ワイヤーメッシュ柵の場合】

- 柵の破損や、地際に隙間がある。
→イノシシによる破壊や掘り起こしが原因と考えられます。
破損か所は早めに補修し、地際の補強を行きましょう。



▲地際からもぐりこむイノシシ

【電気柵の場合】

- 電圧が3,000V未満になっている。
→草木や作物の接触、バッテリー切れ、電線やアース線の断線・劣化などが原因です。電圧低下の原因を確認し、早く改善しましょう。
- 夜間や収穫後は通電していない。
→野生獣が電気の流れていない柵に慣れないように、24時間365日通電しておきましょう。

その5 効果的な追い払いをしましょう(サル)

サル対策は被害の出始めが肝心です。地域住民が徹底した追い払いを行い、サルに対し、心理的なプレッシャーをかけ続け、「人里は怖い場所」として学習させることが大切です。また、追い払いは集落ぐるみで行うと効果的です。

【効果的な追い払いの合言葉】

- ①サルが来たら**必ず**、
- ②出た場所に**集まり**、
- ③**複数人**で、
- ④集落から**出ていく**まで、
- ⑤被害の有無にかかわらず、**追い払い**ましょう。



追い払い団結式の様子

◆お問い合わせ先

香川県農政水産部農業経営課 TEL. 087-832-3411
東讃農業改良普及センター TEL. 0879-42-0190 小豆農業改良普及センター TEL. 0879-75-0145
中讃農業改良普及センター TEL. 0877-62-1022 西讃農業改良普及センター TEL. 0875-62-3075

参考文献：「これならできる獣害対策」（井上雅央 著）
「これからの地域社会のための獣害対策」（山端直人 著）

できることから始めよう！ 集落ぐるみでの獣害対策

1) 野生獣による農作物被害の発生要因

山で生活する野生獣は本来、警戒心が強く、非常に臆病な性格のため、進んで人里には現れません。しかし、何かのきっかけで人里近くのほ場で餌が採れた時に、農作物の味を覚え、そこを餌場と認識します。このような経験を積み重ねることで、人里が野生獣にとって「安心」して「餌」が食べられる場所だと学習すると、次第に行動が大胆になり、被害はみるみる拡大していきます。

◇ どんな場所が安心できる？

野生獣が安心できる環境とは、身を隠すことができる場所です。例えば、荒れた雑木林や竹林、耕作放棄地や田畑付近の藪などは、野生獣の絶好の隠れ場所となっています。

◇ 野生獣の餌は2種類

集落には、野生獣が「食べたら怒られる餌」と「食べても怒られない餌」があります。水稻や野菜など手間暇かけて管理した農作物が食べられたら、当然みなさん腹が立ちますが、一方、水稻の2番穂（ひこばえ）や、規格外等の理由により、ほ場に廃棄された果実や収穫物残さなどは食べられたことにも気づかないかもしれません。

しかし、これらはどちらも野生獣にとっては、立派な餌です。

【食べても怒られない餌】

平均86kg/10a（玄米換算・令和元年度東讃農業改良普及センター調査）の餌が生産される。
= 体重50kgのイノシシなら約40日分の餌



↑ 水稻の2番穂（ひこばえ）



↑ 廃棄みかん

2) 勉強会の実施

被害防止対策を始める前に、まずは野生獣の行動・習性や被害防止対策について、正しい知識を身につけることが重要です。集落で勉強会や話し合いの場を持ちましょう。

その場で被害情報の共有や意識統一を図り、集落として対策に取り組むことが効果的です。

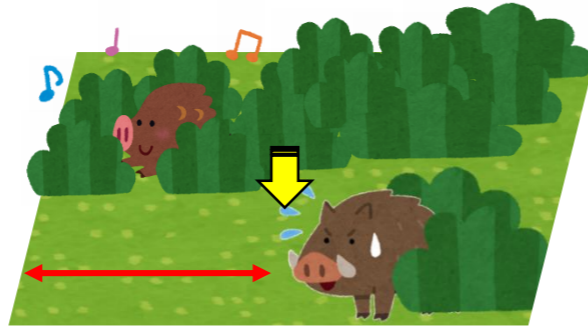


勉強会の様子

野生獣を寄せ付けない環境づくりをしましょう！

3) 被害防止対策のポイント

その1 隠れ場所をなくしましょう



野生獣の隠れ場所をなくし、見晴らしのよい環境づくりを心がけましょう。

- 耕作放棄地や藪がある。
→定期的な草刈りを実施しましょう。
- 【既に侵入防止柵を設置している場合】
- 侵入防止柵沿いに草木が茂っている。
→常に柵が見える状態を保ちましょう。
→緩衝帯を整備しましょう。

東かがわ市水主笠松地区の事例

ワイヤーメッシュ柵と電気柵の複合柵を山際に設置していたが、柵の外側に草木が繁茂し、サルの侵入経路となり、被害が発生していた。

【対策】

集落の有志が2日間で延べ15名参加し、侵入防止柵の外側に緩衝帯を整備した。
(幅10~15m、延長160m)



伐採作業



× 柵の上部を木が覆っていた



○ 見晴らしが良くなった

⇒その後、このエリアからのサルの侵入は確認されていない。

その2 無意識の餌付けをやめましょう

こんなほ場は要注意！！集落を点検し、以下に該当するほ場は、対策を行いましょう。

- 水稲収穫後の2番穂（ひこばえ）が出ている。
→収穫後は速やかに耕起しましょう。（下写真）
- 収穫物残さをほ場に放置している。
→適切に処理しましょう。
- 集落内に誰も管理していない放任果樹がある。
→収穫する樹は低木化するなどして適切に管理し、その他の樹は伐採も検討しましょう。

特に早期水稲は、収穫後の降雨と高温でひこばえが実りやすいため、早期の耕起が対策の鍵となります！



水稲収穫後の耕起の様子



ブロッコリー収穫後の茎葉を食べるサル



管理されず鳥獣の餌となっている柿

その3 侵入防止柵を設置しましょう

侵入防止柵には、ワイヤーメッシュ柵や電気柵などの種類があります。野生獣の特性を十分に理解し、効果的な侵入防止柵を設置しましょう。

ワイヤーメッシュ柵

- 地際に隙間をつくらない。
- 下段の針金は、地際に留める。

電気柵

- ワイヤーは20cm間隔。（イノシシ）
- 地面の起伏に合わせて支柱を配置し、隙間をつくらない。



柵設置の様子